



卒業アルバムより

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。入学し、高校という長い人生の第一歩を踏み出した。期待と不安を胸に根室高校の時間を過ごし、皆さんは立派に成長した。今日の晴れの日を迎え、胸を張って、根室高校を巣立ってくださった。皆さんは根室高校が単位制になってから戸惑うことも多かった中、何事でも皆さんは、勉強や学校行事、部活動などを通して、新たな出会いと多様な学びを体験され、楽しく充実した時間を過ごされたと思います。これから正に高校時代の「成長」の真価を発揮するときなのです。しかし、三年という歳月を振り返るとき、楽しかったことはあっても、厳しい練習を乗り越え、努力しても思っていた結果が得られなかった時もあったことでしょう。また、受験勉強などかなかなか伸びない成績に悩んだこともあったのではないのでしょうか。壁に当たっているのに結果が出ず、大きな壁に阻まれ目標を見失いかけて、どうした良いか分からなくなっている時もあると思います。そこで、皆さんに紹介したい言葉があります。それは昨年メジャーリーグを引退したイチロー選手の言葉です。「壁というのは、できる人にとっては超えられる可能性のある人、時にはチャンスだと思っている。壁がある時は立ち止まってしまう人、壁があるけれども前に進もうとする人、壁があるから、壁は「成長」へのチャンスなのだと言っているのです。卒業生の皆さん、決して今日の日は新たなステージへスタートの日です。皆さんはこれから新たな世界にチャレンジすることがあります。次のステージに、最後の気持を忘れないでください。そして、卒業をお祝い申し上げます。お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、お友達、先生、教職員、皆さん、温かく導き、見守ってくださったお陰です。保護者を代表して、心よりお礼申し上げます。

新たなステージへ



PTA会長

平澤 譲

三年次生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様方には、お子様の卒業に心からお祝いを申し上げます。私は、学校行事が終わる度に根高が、そして根高の生徒が大好きになっています。例えば、根高祭での出来事は私の胸に深く刻み込まれています。もう伝統と言っていないでしょう。根高祭の開幕は、文化会館でのクラス対抗合唱コンクールです。今年度の一年E組は、たったの七人しかいません。そこで、年次の先生方、私と教頭先生も助っ人として参加することになりました。他のクラスに比べて三分の二にもなりません。しかも生徒が選曲したのが、かりゆし58の「アンマー」です。「アンマー」とは、沖縄の方言で、お母さんを表します。この曲は、「これまでになくさん迷惑をかけてきたけれど、今では母親の愛にちゃんと気づいています。」という気持ちで、まっすぐに表現されています。とてもいい曲なのですが、ラップ的なところもあり、ほとんど戦力外の状況です。本番当日は、「もうどうにでもなれっ！」と腹をくくってのスタートでした。その時です。確かに三年次生の座席から拍手が。その拍手が拍手を呼び、最後には会場全体が拍手に包まれました。その温かい拍手に、思わず感激の涙を流しそうになりました。三年次生はすごい！心からそう思いました。見事に一年E組のピンチを救ったのです。その良き伝統を二年次生や一年次生も引き継いでいってくださることでしょう。終わりはありますが、平澤PTA会長をはじめ、多くの保護者の皆様のおかげで、今年度の修了を迎えることができました。ありがとうございます。

手拍子



校長

目谷 信靖